

ワーカーズ集会を開催しました

釧路支部 11/13

生活クラブ組合員を対象に、生活クラブ釧路支部主催で開催。それぞれが暮らしで何かやってみたい!と11名が集まり、ワーカーズの働き方や理念、立ち上げの事例報告などに触れました。



後半は、3つのテーマに分かれてワークショップを行いました。それぞれの想いが模造紙上で展開され、何ができそうか積極的に意見が出されました。また、「実践報告から方向性やアイデアが見えてきて、やる気につながりました。」という感想がありました。参加者の皆さんの生き生きとした表情を見て、ワーカーズ誕生への一歩が踏み出せることを願いました。(報告:岡田)

いしかり支部 10/25

生活クラブいしかり支部と石狩地域連絡会主催のワーカーズ集会「あなたが輝く働き方しませんか!」が行われました。



労働に社会性があること、仕事や運営を柔軟な考え方で進めているワーカーズの働き方について齋藤監事が話しました。参加者からは「自分がやりたい事・やれる事を考えてみたい」と感想がありました。(報告:泉)

2019 まちづくり報告会 & わいわいカフェ
「こんなまちに暮らしたい」

11月30日、生活クラブ運動グループの三者が主催した「まちづくり報告会」が、かでの2・7で開催されました。今年で3回目となります。

地域ごとに生活の中から見えてくる課題などを要望としてまとめ、「2020年度政策提案～予算編成に向けて～」を各自自治体へ生活クラブ運動グループ三者として提出した内容と、おしゃべりカフェや地域調査・出前講座など1年間の地域での取り組みについて発表し共有しました。次に代理人から、議員の権限について・代理人としての役割を、実際の活動を例に報告がありました。

後半はテーマに分かれて、代理人と一緒にやりたいこと、どんなこと?をテーマに、「まち探検・地域調査をしたい」「視察報告を聞きたい」「市の施策や予算について知りたい」など、活発に意見交換をしました。(報告:嶋)



第14回 ワーカーズ・コレクティブ全国会議 in 愛知
～協同労働で作る協同組合型地域社会づくり～

全国のワーカーズが一堂に会し、事業の継続発展やより暮らしやすいまちづくりを実現していくために、2月22日(土)～23日(日)に愛知県名古屋市中で開催します。

22日 全体会 基調講演「協働労働で作る協同組合型地域社会づくり」～ワーカーズ・コレクティブで作るまちづくり～
農園「風と土」園主・協同組合研究者 田中 夏子さん

23日 分科会 【午前】分科会 9:15～
【午後】自主企画 / オプションルツアー

主催: ワーカーズ・コレクティブネットワークジャパン (WNJ)
申込: 090-2318-8949 / mail:wnj.k0927@gmail.com (北田)

■発行 / 特定非営利活動法人 北海道ワーカーズ・コレクティブ連絡協議会
〒060-0041 札幌市中央区大通東2丁目15-1 サラサビル4階 A号室
☎ 011-596-0650 FAX 011-596-0651
Email wco28@athena.ocn.ne.jp
http://hokkaido-workers.org

■発行責任 / 大熊 薫 編集責任 / 理事会 制作 / プランズEPO

■年4回発行 年間購読料 / 1000円

北海道ワーカーズ・コレクティブ連絡協議会は1986年に設立。34団体約500名が加入しています。

業種	団体数
食	6
福祉	12
子育て支援	11
業務請負	3
リサイクルと環境雑貨の店	1
企画・編集	1

Wish [ウィッシュ]

No. 56
2020.1 [年4回発行]

私たちは「ワーカーズ・コレクティブ」で起業しています

ワーカーズ・コレクティブとは、生活者の視点から地域に必要な「もの」や「サービス」を市民事業として事業化し、全員が出資・経営・労働する働き方です。

新しい自分を発見し、
経験を還元し続けていきたい

interview 小倉 菜穂子 さん

食のワーカーズ はず菜

札幌市西区西野3条9丁目11-8

TEL 011-667-2133 <1998年設立・会員13名>

2007年より8年間市民ネットワーク北海道*の代理人として活動。現在は食のワーカーズと介護職を兼務する傍ら、議員経験を活かした発信活動にも携わる小倉さんにお話を聞きました。



子どもたちは自立し、良き理解者である夫と2人暮らし。日々、腕を上げている夫の料理が楽しみです。

新たな学びの場に

1991年に生活クラブ生協に加入し、支部委員長などを担いながら活動を続けた後、市民ネットワークの代理人として札幌市議会議員を務めました。二期8年という役割を終え、次に進む方向を考えていた頃、知人から声が掛かり、重度訪問介護のヘルパー、そして「はず菜」でのお弁当づくりというふたつの仕事に出会いました。

介助については資格を取るところからのスタートでしたが、調理もどちらかという得意とは言えない分野でもあったので、自分にとってはちょっと意外な道でしたが、新たな発見があるかもしれないと思い、入っていくことにしました。

現場だからわかることを

介助は、利用者さんの家庭内で生活をサポートする仕事です。当初は、自分が良かれと思ってすることが、本人の意思や生活を飛び越えた言動だと指摘を受けて初めて気づくなど、自分の価値感や介助についての認識のずれに戸惑う経験を繰り返していました。利用者さん自身

の生活に照準を合わせるという基本を肌で学ぶ今は、かつて議員活動の中で考えてきた「福祉」を現場で実践しているように思います。

一方、ワーカーズでのお弁当作りは、一対一で関わっていく介助の仕事と対照的に、チームで行う仕事。大量調理ならではの難しさや苦労もありますが、自分の作ったひと品が、誰かの食卓に届くまでの思いを分かち合っていると感じます。ワーカーズは物事を決める時も、皆で話し合い考えることを大切にしているので、思いが形になるまでのすべてに関わる一員であることを特に実感できるのだと思います。また、丁寧に作ったものは美味しい、食べ物が体を作っている、ということを実感しているため、自分自身の食生活への意識も高くなりました。

代理人の経験を活かして

学生時代から、社会的に疑問を持つことに関しての行動・発信は必要だと思っていました。今携わっている障がい者サポートや食に関しても、代理人の経験を役立てられることはないかと考え、2年前から当事者やその家族、介助者などで構成する「介助研究会」の一員として、要望書・提言書を作成するなどのお手伝いをしています。このような活動にこれまでの経験を活かしていくことは、自分の責任でもあると考え、ライフワークにしていきたいと思っています。 【取材/岡田・亀川】

*市民ネットワーク北海道 議員を市民の「代理人」と位置づけ、社会の問題を自らの主体性で解決する地域社会をめざし活動している。



メンバーと共に「はず菜で学んだ調理のコツは自宅でも大活躍。天ぷら上手になりました!」